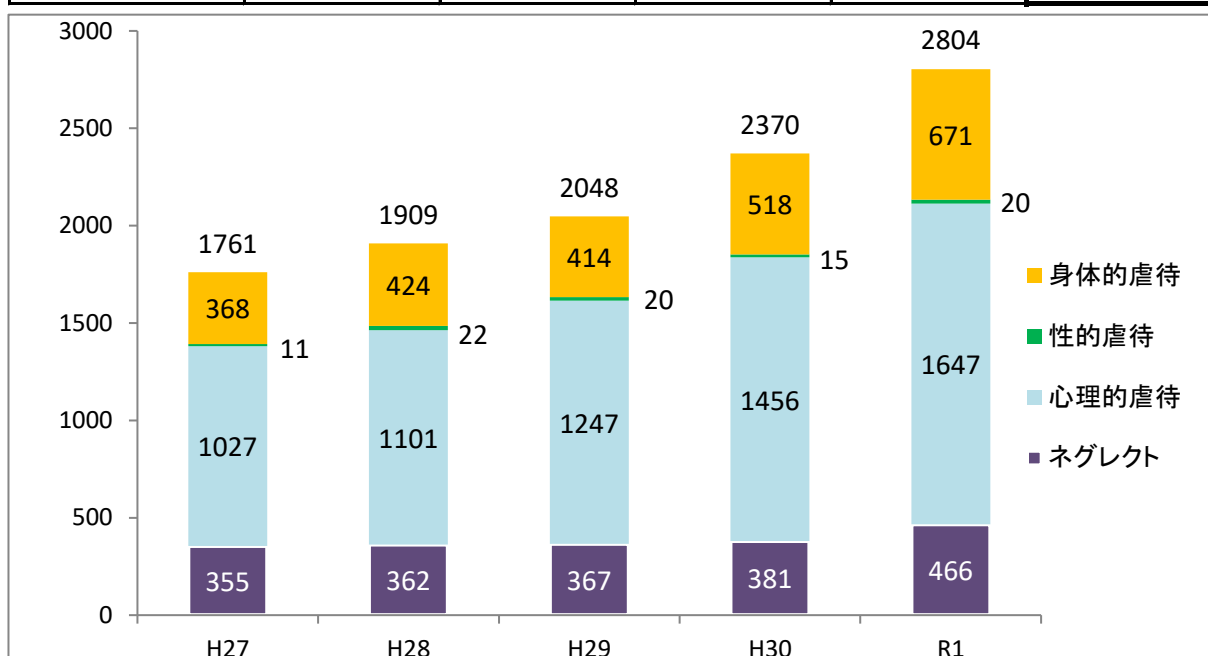


1 児童虐待相談対応件数及び虐待の種別

児童虐待 相談対応件数		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
長野県	件数	1,761	1,909	2,048	2,370	2,804
	対前年度比	107.5%	108.4%	107.3%	115.7%	118.3%
全 国	件数	103,286	122,575	133,778	159,838	-
	対前年度比	116.1%	118.7%	109.1%	119.5%	-

虐待の種別		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
身体的 虐待	件数	368	424	414	518	671
	構成比	20.9%	22.2%	20.2%	21.9%	23.9%
性的 虐待	件数	11	22	20	15	20
	構成比	0.6%	1.2%	1.0%	0.6%	0.7%
心理的 虐待	件数	1,027	1,101	1,247	1,456	1,647
	構成比	58.3%	57.7%	60.9%	61.4%	58.7%
ネグレ クト	件数	355	362	367	381	466
	構成比	20.2%	19.0%	17.9%	16.1%	16.6%
(合計)		1,761	1,909	2,048	2,370	2,804



県内児童相談所における児童虐待相談対応件数は、2,804件で、対前年度比434件(18.3%)の増加となりました。8年連続で増加し、平成2年度に統計を取り始めて以来、過去最多を更新しています。

相談対応件数が増加している理由として、

- ①児童虐待に関する認識が高まり、関係機関や県民が虐待を受けたと思われる児童を発見した場合、速やかに児童相談所へ通告するという意識が高くなっていること
- ②家庭の養育力の低下や家庭の経済状況等により、子育てが孤立化し、その負担感などが虐待という形で発生しやすくなっていること

等が考えられます。

また、虐待の種別では、心理的虐待が1,647件で最も多く、対前年度比191件(13.1%)増加しており、身体的虐待は671件で前年度比で153件(29.5%)増加しています。心理的虐待及び身体的虐待が増加している理由として、児童がいる家庭での配偶者や児童に対する暴力事案について、警察からの通告が増加していること等が考えられます。

2 相談の経路及び対応の内容

相談の経路		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
児童本人	件数	14	13	18	31	47
	構成比	0.8%	0.7%	0.9%	1.3%	1.7%
家族親戚	件数	230	185	234	226	348
	構成比	13.1%	9.7%	11.4%	9.5%	12.4%
近隣知人	件数	95	113	83	171	201
	構成比	5.4%	5.9%	4.1%	7.2%	7.2%
福祉事務所	件数	131	175	235	90	121
	構成比	7.4%	9.2%	11.5%	3.8%	4.3%
市町村	件数	342	314	300	366	452
	構成比	19.4%	16.4%	14.6%	15.4%	16.1%
児童福祉施設	件数	90	51	59	53	65
	構成比	5.1%	2.7%	2.9%	2.2%	2.3%
警察	件数	588	768	857	975	1,052
	構成比	33.4%	40.2%	41.8%	41.1%	37.5%
医療機関	件数	47	39	32	61	71
	構成比	2.7%	2.0%	1.6%	2.6%	2.5%
学校・教育委員会	件数	204	230	205	366	395
	構成比	11.6%	12.0%	10.0%	15.4%	14.1%
その他(*)	件数	20	21	25	31	52
	構成比	1.1%	1.1%	1.2%	1.3%	1.9%
(合計)		1,761	1,909	2,048	2,370	2,804

*「その他」は、児童委員、里親など

相談対応の内容		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
施設入所	件数	61	72	76	60	96
	構成比	3.5%	3.8%	3.7%	2.5%	3.4%
里親等委託	件数	5	11	14	22	20
	構成比	0.3%	0.6%	0.7%	0.9%	0.7%
面接指導	件数	1,629	1,768	1,904	2,214	2,585
	構成比	92.5%	92.6%	93.0%	93.4%	92.2%
その他(*)	件数	66	58	54	74	103
	構成比	3.7%	3.0%	2.6%	3.1%	3.7%
(合計)		1,761	1,909	2,048	2,370	2,804

*「その他」は、児童福祉司による指導等

相談の経路では、近年警察からの件数が増加し、令和元年度は1,052件で対前年度比77件(7.8%)の増加となりました。以下、市町村の452件、学校・教育委員会の395件と続いています。対応の内容としては、ほとんどが面接指導(助言や在宅での支援)であり、全体の92.2%となっています。児童を家庭から離す必要が生じる前に、市町村等地域の関係機関が連携して子どもやその保護者にきめ細やかに関わり支援する重要性がさらに増しています。

3 主な虐待者及び虐待を受けた児童の年齢

主な虐待者		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
実父	件数	778	824	870	1,014	1,188
	構成比	44.2%	43.2%	42.5%	42.8%	42.4%
実父以外の父親	件数	84	189	121	137	155
	構成比	4.8%	9.9%	5.9%	5.8%	5.5%
実母	件数	837	835	990	1,165	1,395
	構成比	47.5%	43.7%	48.3%	49.2%	49.8%
実母以外の母親	件数	10	17	12	13	11
	構成比	0.6%	0.9%	0.6%	0.5%	0.4%
その他 (*)	件数	52	44	55	41	55
	構成比	3.0%	2.9%	2.3%	1.7%	2.0%
(合計)		1,761	1,909	2,048	2,370	2,804

*「その他」は、父母がいない家庭の祖父母やおじ、おばなど

虐待を受けた児童の年齢		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
0～3歳未満	件数	309	335	371	398	510
	構成比	17.5%	17.5%	18.1%	16.8%	18.2%
3歳～学齢前児童	件数	426	499	529	414	493
	構成比	24.2%	26.1%	25.8%	17.5%	17.6%
小学生	件数	596	648	689	836	1,027
	構成比	33.8%	33.9%	33.6%	35.3%	36.6%
中学生	件数	274	303	296	417	463
	構成比	15.6%	15.9%	14.5%	17.6%	16.5%
高校生その他 (*)	件数	156	124	163	305	311
	構成比	8.9%	6.5%	8.0%	12.9%	11.1%
(合計)		1,761	1,909	2,048	2,370	2,804

*「その他」は、中学校を卒業した者等

主な虐待者は、実母が1,395件(49.8%)で最も多くなっています。次いで実父が1,188件(42.4%)、実父以外の父親が155件(5.5%)となっています。

虐待を受けた児童の年齢では、小学生が1,027件と最も多く、全体の36.3%を占めており、次いで未就学児童(0～3歳未満と3歳から学齢前児童の合計)が1,003件(35.8%)となっています。

(資料2)

○配偶者等からの暴力(DV) 相談件数

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
DV相談件数(*)	1,408	1,513	1,592	1,658	1,531
対前年度比	58.7%	107.5%	105.2%	104.1%	92.3%

※件数は、相談(電話・面接)の延件数

*女性相談センターを含む配偶者暴力相談支援センター(3所)、県保健福祉事務所(10所)、女性相談員が配置されている市福祉事務所(13市)が受け付けた相談件数の合計

配偶者等からの暴力による相談件数は、1,531件で対前年度比 127件(7.7%)の減少となりました。

引き続き、長野県におけるDV対策の基本的な方針と施策の実施内容を示した「第4次長野県配偶者からの暴力の防止及び被害者のための支援基本計画」(DV防止基本計画)に基づき、相談体制の整備や保護機能の強化、関係機関との連携強化等のDV対策を講じていきます。

なお、第4次DV防止基本計画は令和2年度で終了するため、令和3年度を始期とする第5次DV防止基本計画を策定します。

(資料3)

○児童虐待・DV24時間ホットライン 相談件数

	相談種別	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	対前年度比
児童関係	児童虐待	173	149	132	172	154	89.5%
	養育	140	116	85	121	147	121.5%
	その他(*1)	664	760	565	696	738	106.0%
	小計	977	1025	782	989	1,039	105.1%
女性関係	DV被害	44	41	56	58	43	74.1%
	夫婦問題	49	23	33	30	28	93.3%
	親族の暴力	13	27	6	12	11	91.7%
	その他(*2)	220	58	42	47	44	93.6%
	小計	326	149	137	147	126	85.7%
その他(*3)		310	474	139	88	60	68.2%
合計		1,613	1,648	1,058	1,224	1,225	100.1%

*1は、「児童相談所に直接連絡を取りたい」などの取りこぼし等

*2は、親族関係、近隣関係、友人関係の相談等

*3は、無言電話、問い合わせ電話等(H28年度まで)。H29年度からは問い合わせ電話等(無言電話を除く)。

電話受付総数は1,225件で対前年度比 1件(0.1%)の増加、児童関係は1,039件で対前年度比 50件(5.1%)の増加、女性関係は126件で対前年度比 21件(15.3%)の減となっています。その内、児童虐待に関するものが154件、DV被害に関するものが43件となっています。

H29年度から無言電話・間違い電話を計上していないため、H28からH29は総件数が大幅に減少しています。

(資料4)

○被措置児童等虐待の状況(児童福祉法第33条の16の規定による公表)

1 法に基づき、県が対応した件数

1件

2 事案の状況及び法に基づき県が講じた措置

事案の状況	1. 児童養護施設において、職員の指示を聞き入れない小学生女子児童に対し、当該施設の女性職員が拳で胸部を押す不適切な指導を行った。
措置の内容	口頭・文書による指導

○にんしんSOSなごの 相談件数

1 相談件数

相談種別	件数	構成比
妊娠不安	64	33.5%
予期せぬ妊娠のいきさつと今後の悩み	18	9.4%
中絶に関する相談	11	5.8%
妊婦健診・出産費用がない	8	4.2%
現在の体調について	10	5.2%
DV・性被害の相談	6	3.1%
養育困難	2	1.0%
養子縁組・里親等に関する相談	0	0.0%
子育て全般に関する事	3	1.6%
出産・分娩不安	2	1.0%
その他(1)	36	18.8%
その他(2)	31	16.2%
合計	191	100.0%

2 男女別件数

性別	件数	構成比
男	42	22.0%
女	134	70.2%
不明	15	7.9%
合計	191	100%

3 相談経路別件数

相談種別	本人	パートナー	母親	父親	親戚	知人	その他	計
妊娠不安	64	0	0	0	0	0	0	64
予期せぬ妊娠のいきさつと今後の悩み	17	0	1	0	0	0	0	18
中絶に関する相談	11	0	0	0	0	0	0	11
妊婦健診・出産費用がない	8	0	0	0	0	0	0	8
現在の体調について	10	0	0	0	0	0	0	10
DV・性被害の相談	6	0	0	0	0	0	0	6
養育困難	2	0	0	0	0	0	0	2
養子縁組・里親等に関する相談	0	0	0	0	0	0	0	0
子育て全般に関する事	3	0	0	0	0	0	0	3
出産・分娩不安	2	0	0	0	0	0	0	2
その他(1)	0	23	3	1	1	3	5	36
その他(2)	1	0	0	0	0	0	30	31
合計	124	23	4	1	1	3	35	191
構成比	64.9%	12.0%	2.1%	0.5%	0.5%	1.6%	18.3%	100.0%

4 相談対象者の年齢別

相談種別	15歳未満	15～19歳	20～25歳	26～29歳	30代	40代	50代	不明	計
妊娠不安	0	33	15	5	3	2	0	6	64
予期せぬ妊娠のいきさつと今後の悩み	0	6	6	3	1	0	0	2	18
中絶に関する相談	0	1	2	2	4	0	0	2	11
妊婦健診・出産費用がない	0	0	2	0	6	0	0	0	8
現在の体調について	0	0	0	1	3	1	0	5	10
DV・レイプ(性被害)の相談	0	2	2	1	1	0	0	0	6
養育困難	0	0	0	1	1	0	0	0	2
養子縁組・里親等に関する相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子育て全般に関する事	0	0	0	1	2	0	0	0	3
出産・分娩不安	0	0	0	1	1	0	0	0	2
その他(1)	0	7	6	2	1	2	3	15	36
その他(2)	0	0	1	1	0	0	0	29	31
合計	0	49	34	18	23	5	3	59	191
構成比	0.0%	25.7%	17.8%	9.4%	12.0%	2.6%	1.6%	30.9%	100.0%

※「その他(1)」は、本人以外の相談や関係機関等からの業務連絡

※「その他(2)」は、無言電話、問い合わせ電話など

※窓口開設の平成31年3月29日からの相談件数です。

予期せぬ妊娠に悩む方の相談窓口を平成31年3月29日に開設しました。
 開設以来191件の相談があり、64件(33.5%)が妊娠不安(妊娠していたらどうしたらよいか。妊娠しているかもしれない不安など。)を主訴とするものでした。
 男女別では、女性が134件(70.2%)となっています。
 相談経路別では本人からの相談が最も多く、124件(64.9%)となっています。
 対象者の年齢別では不明が最も多く59件(30.9%)、次いで15～19歳の相談が49件(25.7%)でした。
 匿名相談が可能で、年齢を言いたくないという相談者のニーズが背景として考えられます。